



MONTO

(MONTO WEB版) <http://www-poly.iwate-pu.ac.jp/monto/>
インターネットで公開中●知事インタビューを15分間の動画で再現
●平成13年度入試「総合問題」「小論文」の問題速報

岩手県立大学
総合政策学部ニュース
Iwate Prefectural University
第5号2001.4.5

今号の「モント事件簿」は
「空中回廊不審者侵入事件の謎」(8画)

平成13年度総合政策学部入試 受験者、全国に広がる 前期4.4倍、後期13倍 依然「総合問題」には戸惑い

平成13年度新入学生をむかえて、岩手県立大学は完成年度にはいる。一年生から四年生までがそろい、さまざまな意味において、大学がようやくその全体像を現すことになる。

四回目の入試が終わって、総合政策学部の「総合問題」と「小論文」も、学部の理念を映し出す鏡としての役割を果たすに足るものになってきた。

十三年度の入試は、十二年度に導入した大学入試センター試験科目数の減少にともなう倍率の揺り戻しが懸念されたものの四・四倍に踏みとまり、後期は十三倍にまで伸びた。

受験者の出身校も、東北を中心に、北海道から九州にまでおよび、岩手県立大学総合政策学部の存在の浸透ぶりにあらためて驚かされた。

とはいえ、問題も面白いわけではない。試験問題を通して発しようとしている総合政策学部の理念と出題意図が十分に理解されているとは言えないのである。

特に、「総合問題」については、受験者から、依然として、「対策ができない」という言葉をよく聞かれる。

知識があるにすぎたことではないが、解答にあたって求めているのは詰め込まれた知識ではない。求めているのは、当該の問題を自ら

のこととして引き受け、考え、解決するための方策を、たとえ稚拙であっても自分なりに構想する能力である。対策は日常生活の過し方にある。

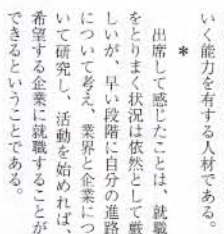
ところで、十三年度入試から、総合政策学部では、「総合問題」「小論文」の問題を受験者のみならず、より広範に、いち早く知りてもらうために、試験終了と同時に、「MONTO」のホームページで速報として公開することになった。

また、検討中であるが、現在の公開している入試情報以外の情報についても積極的に関与して行きたいと考えている。



柳村滝沢村長大学院で講義 「分権時代の自治体改革」

平成十二年十一月二十日、県立大学大学院総合政策学部のジョイントタスクワーク「政策過程と政策分析」に柳村純一滝沢村長を招いて、「分権時代の自治体改革」について講義をしていただいた。大学院生や学部学生など約三十人が聴講した。柳村氏は「借金ばかりつづつてきた拡大主義の行政システムを改めること」、「地方分権時代においては自治体の経営能力が問われる」ことを強調した。また、行政の体質について言及し、「勇気をもって改革の道を進まなければならない」と決意を示した。



平成十二年十一月二十日、県立大学大学院総合政策学部のジョイントタスクワーク「政策過程と政策分析」に柳村純一滝沢村長を招いて、「分権時代の自治体改革」について講義をしていただいた。大学院生や学部学生など約三十人が聴講した。柳村氏は「借金ばかりつづつてきた拡大主義の行政システムを改めること」、「地方分権時代においては自治体の経営能力が問われる」ことを強調した。また、行政の体質について言及し、「勇気をもって改革の道を進まなければならない」と決意を示した。

合弁事業、資源開発、プラント輸出などさまざまであることが説明された。求めているのは、問題を自分で発見し、解決していく能力を有する人材である。

出席して感じたことは、就職をとりまく状況は依然として厳しいが、早い段階で自分の進路について考え、業界と企業について研究し、活動を始めれば、希望する企業に就職することができるということである。



三月八日、「MONTO」取材のため、県立大学の学生七名が、県庁を訪れ、増田寛也岩手県知事にインタビューを申し込んだ。当日は、岩手県議会の三月定例会議の閉会中にもかかわらず、貴重な時間をさいていただき、快くインタビューに応じてくださった。内容は、さまざまです。増田知事が常々おっしゃっている県の施策の考え方や県立大学学生への期待だけでなく、増田知事の学生時代の様子にまで話題がおよび、新聞やテレビでのイメージとはちよっと違っていました。

県立大学は、平成十三年度で開学から四年目を迎える、いよいよ上級生がそろいます。同時に、四年生は就職活動が本格化し、社会人に向けたステップが始まります。

一人の人間として「自立」することの大切さを説いた増田知事のメッセージをかみしめ、有意義な学生生活を送りたいものです。(インタビューの内容は、六・七面をご覧ください)

就職説明会と業界セミナー 難関突破めざし精力的に開催

総合政策学部就職委員会、平成十二年六月から十一月にかけて、三年生(当時)を対象に、数回にわたって就職説明会と業界セミナーを開催した。

■就職説明会
「日経就職ガイド」で知られる株式会社コトバンク社長の高野裕氏を講師に迎えて二回開催。

■第一回 六月二十八日
テーマ「今年の就職戦線と心構え」。講演は「母集団形成(資料請求)」「会社説明会」「筆記試験」「面接試験」「採用決定」という採用プロセスにそって進められた。とりわけ、資料請求(エントリー)の重要性が指摘され、請求しないとその後輩が来ないで、遅くとも一月中に行う必要があると強調された。

■第二回 十一月二十二日
テーマ「資料請求、エントリーシート等就職活動の流れ」。最初に、東京の学生の就職活動を取材したビデオが放映され、参加した学生たちは改めて活動の厳しさを実感した。高野氏は、資料請求の重要性を改めて強調したほか、会社説明会における注意点として、受付から

チェクされていること、事前には自分から積極的に質問する必要があることなどを指摘した。

■業界セミナー 計七回開催
七月十二日 講師は岩手銀行・橋爪清人氏。テーマは「銀行業界の現状、展望、預金・貸出等の銀行業務及び金融ビッグバンにともなう状況変化について説明がなされた」。

■第二回 住宅業界セミナー
同日。講師は、東北ミサワホーム・沼山真也氏。家づくりのトレンドについての説明に続き、近年の住宅着工状況と着工数の減少傾向が指摘された。その後、体験談を交えて、営業における心構えが紹介された。

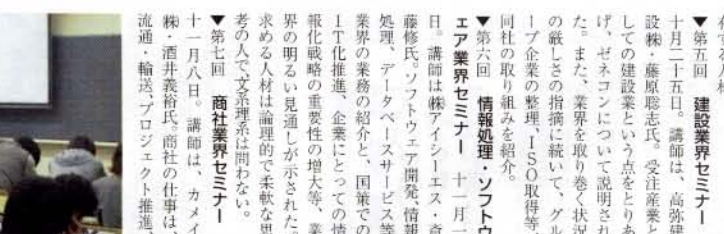
■第三回 流通業界セミナー
十月四日。講師は株式会社ジョイスの田村重光氏と榎野正明氏。近年の動向として、容器リサイクル法等の立法、外資系の日本進出、流通淘汰の現状等について説明された。流通業界が求めているのは、実行力、理解力、研究心、積極性を有する人材と強調。

■第四回 証券業界セミナー
十月十一日。講師は、野村証券・畑中善幸氏。開設金融と直接金融の違い、競争激化されている現状について説明がなされた。証券業界が求めているのは、主体性、創造力、知的好奇心を有する人材。

■第五回 建設業界セミナー
十月二十五日。講師は、高野建設・藤原聡志氏。受注産業として建設業という点をとりあげ、ゼネコについて説明された。また、業界を取り巻く状況の厳しさを指摘し、ISO取得等、同社の取り組みを紹介。

■第六回 情報処理・ソフトウェア業界セミナー
十一月一日。講師は株式会社エヌ・斎藤修氏。ソフトウェア開発情報処理、データベースサービス等業界の業務の紹介と、同業での情報化戦略の重要性の増大等、業界の明るい見通しが示された。その中で、人材は論理的で柔軟な思考の人で文系は理系的は問わない。

■第七回 商社業界セミナー
十一月八日。講師は、カメイ・酒井義裕氏。商社の仕事は、流通・輸送、プロジェクト推進、



合弁事業、資源開発、プラント輸出などさまざまであることが説明された。求めているのは、問題を自分で発見し、解決していく能力を有する人材である。

出席して感じたことは、就職をとりまく状況は依然として厳しいが、早い段階で自分の進路について考え、業界と企業について研究し、活動を始めれば、希望する企業に就職することができるということである。

増田知事「自立」を強調 県立大生、初のインタビュー

人は時間を何に使うのか。次は仕事、スポーツ、娯楽、教養、休養、色々あるでしょうね。この時間の使い方が、きつと、人生の総和がいろいろ変わってくる。ちよつといやない方がいい。人ははたしたときに、執行猶予の死刑判決を受けているようなものだ。そして、若いときから、老いたときまでの時間の使い方の総和が人というものである。このころ、心理的にいってしまえば、自分はこの60年間、それなりに有意義に時間を使ってきたらうか。今から、反省しても遅くはない。老死を思慮をこぼすことが多くなつた。

▼ところで、全国47都道府県で10歳以上の日本人4万5000人以上を抽出して、15分刻みで、生活行動を調査した調査がある。NHKの放送文化研究所で5年に一回行っている国民生活時間調査だ。10年一回は各県別のデータを発表する。性別は明らかで、年齢から、職業、平日から土曜、日曜まで分かれており、各官庁の調査の基本データになったり、広告会社のコマースやルを流す作戦に利用されたりしている。選挙作戦をたてるにも便利だ。

▼過去30年でも変つた調査だから、時代の変化が読みとれる。最近発表になった2000年の調査報告を読むといえることは、

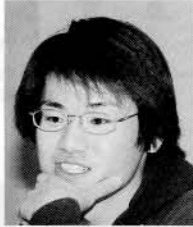
①テレビを見る時間は全国平均で平日3時間25分、日曜4時間13分になり、過去30年間増える一方だ。特に、高齢になればなるほど、見る時間が多くなる。

②趣味、娯楽、教養の時間が増え、特に男性。深夜時間が急増している。これはおそらくはインターネットの利用が広がっていることを意味している。

③睡眠は20年前から調査年ごとに減る傾向がある。などだ。

▼生活時間の異同は依然かなりあり、テレビを見る時間が多いと青森、秋田、北海道の順で多い。短い東京は神奈川、奈良、福井、東京となっている。学業を見ると、新関、難本に使う時間を見ると、最長が神奈川県(10年前)は東京、最長が岩手、栃木、鹿児島(10年前)は岩手、鹿児島となつて、人それぞれの人生活し。どのような使い方を生かすかは本人だけが決めることだ。学生諸君がうやむやい、少なくとも彼ももしくは彼女は、残された時間は長いか短い。

AO体験 個性と将来をみつめ 「学ぶこと」を考える機会に



佐々木大輔 (ささきだいすけ)



佐々木泰洋 (ささきやずひろ)



清水健一 (しみずけんいち)



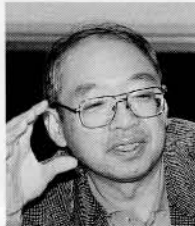
須藤恵美 (すどうえみ)



山本瑞保 (やまもとみずほ)

出席者 (五十音順)

平成12年度入試から新たに導入された
アドミッションオフィス入試(AO入試)を経て入学した
5名の学生たちも4月には2年生。
AO入試に挑んだ高校時代の体験談や、活動的な大学生活の
今を熱く語ってくれた。



信夫隆司助教 司会



三浦黎明教授

信夫隆司助教(司会) ●今日はAO入試の一期生ということになって集まってきた。今までAO入試は、岩手県立大学のAO入試はかなり厳密な方式じゃないかと思ってるんですけど、2回の面談、提出書類の独自性などです。まず皆さんがAO入試をどうとらえて、なぜ挑戦しようと思ったか、その辺から話をさせて下さい。

自己評価と進路の確認

佐々木大輔 ●AO入試は自分を知ってもらえる入試だと思えます。面談で質問を受けるうちに、自分の強がはつきり見えてきたという面がありましたね。
司会 ●面談の時には将来知事になりたいと言ってたね(笑)

佐々木大輔 ●夢はでっかく、夢山本瑞保 ●私は、高校で三年間やってきたことを無意味なものにしたくなかった。それを面談で評価され、認められてとてもうれしかった。これからは頑張ろうという気になりました。
司会 ●佐々木泰洋君は環境問題に関心をもっていましたね。
佐々木泰洋 ●私は県大に絶対入りたかったので、AO入試はチャンスも多かった。元々経済が好きで、さらに環境に興味をもつようになり、両方学べる大学を探しました。学校にある資料で二校ずつ比較していったら、大に決めたのが二年の後半からです。新聞広告でAO入試を知ってからは興味を持ちました。自分が積み重ねてきたことを、実際に自分がどこまでできたか、できるのか、人から客観的に見てもらえることが魅力でした。
司会 ●実際に面談を受けてみて、忌憚らない印象は？
佐々木泰洋 ●面談をして一番うれしかったのは、自分の進路に対して一層に真剣に考えてくれたこと。単なる大学の宣伝ではなく、ここではこういう学問を提議できるとか、あなたがやりたい環境経済学の分野ではこういう講義があるとか。

AO入試という別な道

須藤恵美 ●私も受験のチャンスはできるだけ多いほうがいいと思ったんですね。AO入試だと、学力では計れない個性とか、

自分がやりたいことに対する思いとかを、先生たちが計り評価してくれる。自分がなぜこれから大学に進み、何に興味を持って生きているか、何としたいのか、考えさせてくれました。
清水健一 ●皆さんは冷静に見つめていたけれど、私は試験の時に危機管理をやりたいと話したつもりですが、極度に緊張して何がなんだかわかなくなりました。
司会 ●我々も、あながたがってると分かった(笑)。だが、話がうまくいけば合格ということじゃなくて、上がっているながらも何を語りたいのかを重視します。
清水 ●ペーパーテストは「平等」に点数でふるい落とされる人が出てしまう。AO入試によって選択肢の一つが増えた。AOという別な道があったからこそ私も県大に入るこができたんだと思います。
司会 ●我々も単に成績だけでは足りないものを期待します。特に少ないものを期待します。特に少ないものを期待します。特に少ないものを期待します。

書類作りで自己発見も

司会 ●もう一つ我が大学のAO入試の特徴は志願者評価票ですが、担任に書いてもらいましたか。
山本 ●担任の先生。
司会 ●だいたい皆さん担任の先生ですか。中には鹿鹿りの保存会長さんという例もあります。

。お願いする時は、割と担任の先生方は好意的に。
佐々木大輔 ●だいたいなも戸惑ったんじゃないですか。内申書とちがって、一種の自己推薦だから。
司会 ●当然我々も真剣に読みますしね。志願者評価票はその人物の評価と繋がることがあるんで、きちんと書いてくれることややはり高く評価されている。自己評価に関する書類も結構多かったけれど、どうでしたか。
須藤 ●大変でした。本当に。
佐々木泰洋 ●書類を書く過程で、立ち止まって自分を考えてみることもあった。それがものすごいプラスになった。普通は、センター試験を受けて偏差値が出て、点数がこれくらいだからこの大学と、自分が本当にやりたいのはどこかあるんまり考えない、考えることができない。
清水 ●私も結構バラバラに考えていたの、文章にするために、自分の考えを経過を踏んできちんと整理できたのは良かったと思います。

面談一回で大学を理解

司会 ●他大学は面談一回が多か、二回というのはどうですか。
山本 ●私の場合、一回はすごいガチガチで(笑)、あれだけだったから落ちたと思いますね。

アドミッション・オフィス入試について

岩手県立大学は、平成12年度入試からアドミッション・オフィス入試を導入し、すでに二回目を終えた。幸い一回生は、元気に大学生活を送っているように見える。これは、西澤学長の強いご希望ご指導に基づいて採用されたものである。その特徴は、個別の学力検査を課さないで、受験生の志望動機、能力や活動に関して自己評価できるものをアピールしてもらい、それを総合的に評価するところにある。本学の方法は、特にあらかじめ提出してもらう書類とそれをふまえていた面談(Ⅰ、Ⅱ)を通じて、受験生の要望と本学の教育内容の適合性を互によく理解するようにつとめたところである。

総合政策学部の場合、その教育内容がまだなじみが少なく、受験者からかじめ理解してもらいやすい機会となったのではないかと。さらに、本人も志望動機や学習理由を具体的にくり返し考え直すこととなり、大学入学後の学習にもいい動機づけとなったのではなからうか。もちろん一定の能力・学力が必要ではあるが、その後の成長においては、むしろ学習意欲の強さがものをいうであろう。

合格者は、それだけに学習面の進捗だけでなく、サークル活動などでも、もてなす積極性を発揮してもらいたい。委員としては、本学のいっそうの活性化に寄与してもらいたい。委員としては、判断ミスをおこなう努力はしてきてきたが、定員の制約があり、いつも苦しい選択を余儀なくされた。結果は、すぐには分からないが、「偏差値」に振り回された本意入学者が少しでもなくなり、のびのびとした学習が進められ、ひいては入試の改善に少しでも役立つように願っている。

教職課程!!いよいよ新世紀からスタート、 中学・社会・高校・地歴・公民各一種免許 「人づくりのための 人づくり、 それが教員養成です。」

総合政策学部は、開設以来、鋭意教職課程の認定に向け検討を重ねた作業を取り進めてきました。昨年九月、文部省に対し平成12年度の認定申請を行い、同十二月に認定されました。これにより取得可能なようになった教職免許は、二種類です。それは、中学校の社会、高等学校の地理歴史として公民の各一種免許です。対象は十二年度入学生からとなります。在学生については個別に対応します。地域の教育界や教育産業界へ送り出す有為な教員の人材養成を目指します。

熱い人間を 知りたい



総合政策学部2年 安部 美由樹さん

「僕は無難に生きようとしていた。でも今は、柔軟に考えられるようになった。海外でのワーキングホリデーの経験を通して、自分自身が変わったと感じる

この夏休み、昔から抱いていた外国と英語への憧れを、カナダ州グランドキャニオン国立公園での一ヶ月半のコミュニケーションに悪戦苦闘しながらも、楽しんだ。また、グランドキャニオンの雄大な自然を堪能できたのだろう。もっとやるべきこと

今まで見えなかった日本の良さが見えてきた。聞かされても語られなかった経歴になった。そんな彼女の将来の夢は、海外で働くこと。二国語を話せるようになって、海外で活躍できる人になりたい。と話した。

楽しんでいた。(ひ)

感性：取材を担当記者が感じた色んなこと
イラスト：佐藤 今日子 大前 秋朝
※学年は取材時のものです。

心に響く...



総合政策学部1年 須藤 恵美さん

親も太鼓をたたいている。太鼓一家である。彼女は小学校4年生から3年間、学校の取り組みとして太鼓をたたいていた。6年生の時に子供フェスティバルのためにみんなでまとまって練習したことが忘れられず、高校生になって一関市の「時の太鼓」に入った。

約30年前から活動しているという「時の太鼓」は、中学生から30代まで、幅広い年齢の方が参加している。一関夏祭りでは、山車に乗り太鼓をたたき、練り歩く。

「時の太鼓」に入った理由は、他のところは荒々しく力強い太鼓であるのに対して、「時の太鼓」は音や形がきれいで、力強い音の中にもやさしさがあるから。イベントが近くなると毎日のように練習する。恵美さんも、忙しくないときは一関に帰り、練習に行く。

「パチを振り下ろす。そこに生み出される大小の音」。ときに激しく、ときに穏やかに打ち鳴らすその震動を、組み合わせ、織り交ぜることによって、胸をゆさぶるひとつの曲として作り上げることが太鼓の魅力。太鼓を通して、年代を越えたいろんな人との出会いもある。「太鼓は、心に響きます。太鼓をたたきただけで幸せ。これからも続けていきたい」と熱く語ってくれた。

大学生活については「自治会に入って、大学祭の活動ができるのは楽しいが、学年の枠を超えた活動が少ないように感じます。スポーツ大会があれば…。今後は「これ」というものを見つけたらいい」とのこと。

感性

太鼓に対する思いが、じわじわと伝わってきた取材となった。(き)



人の役に立てるような人に...

総合政策学部2年 佐藤 泰貴さん



学生組織「グレードアップ社(GUC)」代表。インターンシップでの出来事、GUCについて語ってもらった。この大学を選んだ理由は「人の役に立てるような仕事に就きたい。その為にどの分野に進むか悩み、いろいろなことを学べそうな総合政策学部があるから」。

GUCも、「みんなのためになることを何かやりたい!」と思っている人たちが集まって活動できる場を、何とか提供できないかと思いついた。

インターンシップで横浜の会社に行ったとき、一緒に仕事をしてた人から「これから長くずっと仕事をしていくわけだから、不満や言い合いがあったら言ってくれ。俺も言いたいことを言うから」という言葉をかけてもらい、一気に緊張の壁が取り払われたような気分になった。その経験から「相手ともしっかりと深い話したいとか本心を聞きたいと思ったり、まず自分の考えを言わないと相手も心を開いてくれない」と気づき、最近では自分の考えを言うようになった」とのこと。将来の夢は「学校の先生にもなりたいし、海外でも暮らしてみたい」など、いろいろなことにチャレンジしたい。「1日24時間では足りない。寝なくてもいい体が欲しい」。

感性

最近読んでいる本は「歴史小説が好きで、司馬遼太郎の『この国のかたち』」。多趣味な彼がこれからどんな活躍してくれるのか、とても楽しみです。(美)

県立大の名コンビの姿 今明らかだ...

総合政策学部2年 小倉 達郎さん 星 政義さん



小倉さんと星さんには別々にお話を伺うつもりでいたが、「県立大二人組のしゃべりなら負ける気がしないね!」と、二人が出演したというロンドンツアーの番組の番組から始まった「名コンビ」のトークショー。彼らのペースに、引き込まれてしまった。

小倉さんがこの大学を選んだ理由は「新しいもの好きだから」。学生のうちに服のセレクトショップを出店したいと計画中とのこと。いろいろなショップの店員さんとも知り合いというだけあって、経営にもかなり詳しい様子。その他にも、野球部キャプテン、バチプロ、アルバイターといった多くの顔を持ち「ひとつに就専するにしても、(学生のうちに)いろいろなやっておかないと面白くないよ」と話す。暗中模索しつつも、世界はどんどん広がっているようだ。

星さんは、モデルを志していた時期もあり、大学の中や岩手という場所にこだわらず、自分なりの判断基準をもって行動している。正直なところ大学の講義にあまり興味を持っていないのが大学でも、みんなが熱くなるような面白いことがあればと考える。1期生が卒業する前に球技大会とかやりたいよね」と言う。スポーツを通して自然に人が集まり、大学を少しでも自分にとって魅力のある場所にした、と思っているように見えた。

感性

最初は半信半疑だったロンブーの番組出演の話も、広い視野と行動力、加えてプロ顔負けの話し術を持つ彼らならばと、納得できた。こうして、二人との笑いの絶えないインタビューはまたたく間に過ぎていった。楽しくて刺激的なひとときでした。(柳)

ホストマザーとの 出会いが...

総合政策学部3年 佐々木 亜昌さん



現在、佐々木さんは「10年20年かかってもいいから、いつかホストマザーがやっているような施設を岩手に造りたい」という野望をいだいている。このきっかけは、高校2年の時に参加した、岩手県主催の「国際交流事業」でのアメリカ訪問だった。その時に出会ったのが、今も親交を深めているホストファミリーだ。

そのホストマザーの女性は、「Earth Works! (アースワークス)」という体験型の学習施設を主催して、小学生程度の子供を対象に、科学の楽しさや面白さを伝えている。

「どの子供達も積極的に楽しく学習していた」と振り返り、帰国後「身近にある自然を大切に思えるような子供達を育てたい」という思いが日に日に強くなっていった。今の学部を志望したのは、そんな夢の実現に適していると思ったからだ。

子供時代、親の転勤で引っ越しが多かった。新しい土地の自然などに純粋に感動し「知らず知らずのうちに環境に対する感性が育まれてきたんじゃないかな」と言う。今度は自分がそのような感性を持った子供達を育てる番だと考えている。

一方で「それ(ホストマザーと同じことをやる)だけじゃ芸がないから、自分なりにやるにはどうすればいいか」と、独自の「Earth Works!」を模索している最中だ。

感性

動物が好き。卒論のテーマは「環境教育」。その題材集めとして、「山でいるんな動物を見てみたい。できれば友達を連れて行って感動を共有したい」とのこと。(淳)

悔せばなる、悔さねばならぬ...

ソフトウェア情報学部2年 秋山 和隆さん



入学した年の暮れ、およそ2ヶ月間の準備期間を経て、合資会社「デンパウェア」を設立した。コンピュータソフトウェアのプログラミングや企画、開発をはじめ、コンピュータのA機器の販売などを行っている。

米沢藩上杉藩の言葉「悔せばなる、悔さねばならぬ。何事も、悔さねば人の為さぬなりけり」。このことを、今の日本の社会や、周囲に対して、社会的なメッセージとして伝えたいという思いで、研究室の仲間3人と共に、会社を起した。県内の企業から仕事を受注し、新しい情報配信システムの開発を行っている。夏休みを集中的に利用し、およそ半年間で開発を成功させた。ビジネスによって、しっかりと報酬を得ている。

愛媛県の西条市出身。初めてパソコンに触れたのは中学2年のとき。当時のパソコン通信で、中高生が集まる電脳空間上のフォーラムに参加し、そこで脳死や死刑制度についてなど、多岐にわたる問題でゲーム感覚のディベートをしたり、ゲームを作るプロジェクトに参加したりした。このプロジェクトのメンバーは、中学2年からゲーム会社に勤める社会人まで、6~8人。高校2年の夏、リーダーになって、思いついたことを実際に行動に移し、その中で意思疎通を取り合うこと、やる気を起こさせることの難しさを学び、みんなが燃え上がったときに即、行動することの大切さを実感した。

とりわけ様々な個性あふれる人々が集まっているように見えるソフトウェア情報学部。そこで起業して自らチャレンジし、そのつど問題と向き合い勉強して成長していく。学生だからという甘えの許されない社会で、次の目標に向かって今日も前進している。

感性

取材中、真摯に質問に答えてくれた秋山さん。その姿から、将来を見据えながら果敢と現在に取り組んでいるという姿勢を感じることができた。(泰)



編集後記

県立大という場所(パレット)で、様々な個性(色)が生まれ、それが混ざり合っていたらいいなあ、という想いを込めてこの企画を進めてきました。学生の、学生による、「自分色」を見つけようとする全ての人たちに読んでいただきたいインタビューです。いかがだったでしょうか?

取材は、「あの人がこんな活動をしていたなんて!」「そんなスゴイ考えを持っていたの?」という驚きや喜びの連続でした。「ここはまだまだ新しい色が生まれる可能性

に満ちている」...そんな気持ちで毎日過ごす、確実に何かが変わってくるような気がするのです。取材・編集に協力してくださった皆さんに感謝いたします。では、また!

編集者 尾形真紀子 井上智貴 石川淳子 岩泉美奈子 及川きみか 大前秋朝 大和久ひかり 佐藤今日子 佐藤泰貴 中野隆浩 柳原干穂

今感じることは、今がない

総合政策学部3年 柳原 千穂さん



「興味のある事は野生動物の調査」と、個人で企業の野生動物調査に同行している。

きっかけは、白神山地のクマグラについてレポートを書いた時、先生からクマグラの調査団を紹介され、繁殖調査にでかけたことだ。随までの長靴を履いて川を渡り、道無き道を歩いてやっとクマグラを観察した時「なんぞすごいんだろ! すごい場所が日本にあったんだ」と感じた。その後、野生動物の調査をしている企業に片っ端から資料請求をしたところ、その中の一社からカモシカの調査に行かないかと誘われ同行。

「学校と関係なく一人で行くから不安はあるけど、それぞれ自分の生き方を持った人達からさまざまな話が聞ける。それに、直接私が興味ある事はもちろん、精神的な面での考え方も教えてもらえる。行く度にすごくいろんな刺激を受ける」。「自分は面白い事をしている。学生という立場はすごく良い! 調査だって、学生だからできる。会社に入ってしまったら調査に行こうと思っても、社会的立場上無理がある。それに、その場に行っても感じられることも、この年齢だからのもの、もう少し年齢が変わればまた別のものとなる。そういう風に思うと自分の興味ある事を深めるチャンスがあるなら、私はどんどん行きたい。今感じられる事は申し分ないんだから」と言う。

将来の夢は、少しでも野生動物を守ればと「野生動物の調査の仕事」。

感性

野生動物に対する自分の強い思いと動物の事など、熱く語ってくれました。(今)



「高校の...
れる頭を持...
リデー(サマ...
ているようだ...
大学生になり初め...
胸に、アメリカ合衆国アリゾ...
のワーキングホリデー。英語での...
様々な国の人と出会い、文化を等...
に感動し「今までで何てささいなことに煩わ...
とがあるのではないか」という思いを強くした。

アメリカでの暮らしを終え、日本に帰ってくると、今まで生きてきた。そして、アメリカで出会った人達に日本のことを話...
から、日本のことをもっと知りたい、勉強したいと思うようには...
は外国で青年海外協力隊に参加したり、JICAの機関で働くことも...
アメリカで勇氣と皮肉を身に付け、やる気と積極性で、周囲に...
女は、「挑戦しなかつたり、夢をあきらめたりはしたくない」と力強く

感性

一見おっとりした印象だが、強い意志と熱い心を持った素直な

「わがままオヤジ」の真実!?

社会福祉学部3年 鈴木 秀さん

E-mail g022w034@welf.iwate-pu.ac.jp

HP http://www.anna.iwate-pu.ac.jp/~g022w034/



自称「わがままオヤジ」の鈴木さんは現在39歳。滝沢村で奥さんと一人息子の雄大(ゆうた)君(小学3年)の一家3人暮らし。一期生であり、社会人入学生でもあるので、入学当時、新聞やテレビの取材が多数舞い込み「なぜ、仕事を辞めて大学に?」と尋ねられたが、本当の理由は言えなかった。

今回「みんなの期待を裏切るんだろうな」と前置きして、語ってくれた受験の最大の理由は「目の前に大学ができたから」。10年前に現在の場所に家を構えたことが、県立大との「運命的な出会い」で、心理学を学びたいという思いから社会福祉学部を志望した。以前は小学校教諭や学習塾の講師などをしていた。その「安定した」仕事を辞めて大学生になったことから「目的意識が高く、素晴らしい人」というイメージが勝手にできあがっていることに、今でも戸惑う時があるが、自然体で学生生活を送っている。その学生生活も「カミサンの理解があつてこそ」とのこと。

現在は、学業と中学校での相談員アルバイトとの両立で忙しい毎日だが、家ではなかなかのオヤジぶりを発揮しているらしい。お父さんと一緒にインタビューに応じてくれた雄大君は、「(お父さんとは)畳の部屋でサッカーするの」と少し照れながら話していた。

感性

取材日はちょうど休日で、雄大君とのスケートの帰りに大学に寄り、私達の質問に真剣に答えて下さいました。また、相談員のアルバイトをしているだけあって、気がつくとも私達も悩みを聞いてもらっていました。(淳)

看護の道き たどって、22年

看護学部3年 山内 紳代さん



盛岡市内の看護学校を卒業後、本学看護学部へ編入学した。将来は、在宅看護や患者の家族のケアも視野に入れて仕事をしていけたら、と考えている。

編入したのは「もう少し看護を学問的に勉強したい」と思ったから。保健の先生を志して看護学校に入ったのだが、ポイントを押さえた実践的な勉強によって、次第に「看護婦の方をやりたくない」という気持ちが強くなった。規律の厳しい看護学校からみて大学は、学生が自由で伸び伸びしていると感じながらも、「自分でコントロールする前提での自由だから、時間とか守るべきことはちゃんと守らうよ」と思う場面もあるそうだ。

大学に編入してから1年間で「他の学部の人と接する機会を持てたことがとても良かった」と言う。特に、昨年度に参加した1ヶ月間のドイツ研修では「そこで出会った人とか、参加したみんなとの交流がとても価値のあることだった」と振り返る。「総合政策の人となると、やっぱり環境とか政治の話も出てくるでしょ」。

編入制度が導入されて1年目の学生ということもあり、カリキュラムの問題から講義の履修も大変な毎日だが「せっかくいろんな人たちがいるんだから」と、様々な価値観の持ち主と出会うことで、残りの学生生活も充実させていきたいと考えている。

感性

とても家族思いの山内さん。しっかり言葉を選んで、誠実な態度で話してくれました。こういう看護婦さんにお世話になりたい! と思いましたね、本当に。(真)



24時間365日、ラジオ放送中 インターネットにて

ソフトウェア情報学部2年 荒川 健介さん

インターネットラジオ局 FOR http://for.comm.soft.iwate-pu.ac.jp/

個人ページ http://www.comm.soft.iwate-pu.ac.jp/kaiium/index.html



インターネットラジオ局、FORの代表である。普通のラジオ放送は電波の届く範囲でしか聞くことができないが、インターネットラジオは、インターネットに接続できるパソコンなどがあれば、世界中のどこからでも聞くことができる。

●インターネットでラジオを流すのは難しいですか?

「インターネットでラジオを流す方法は、もう、答えがある。それよりどうやって曲を集めようか、どうやって聞く人を増やそうか、どうやってFORの組織を運営してこうか、といったことは答えがない。そっちの方が技術的なことより、はるかに大変です」。

●インディーズ音楽専門で流しているわけですが、それは何故ですか?

「インターネットでラジオをやろうとしたとき、何を放送しようかと考え、目を付けたのが、インディーズのアーティストなんです。映画とかビデオクリップをやっていた経験でわかるんですが、映像などを作っても発表する場がない。名もない者の映像は、コンテストで1位でもとらないと、見てもらうことができない。同じように、メジャーなレコード会社などと契約していないインディーズのミュージシャン達も、発表の場が少ないだろうと、FORはインディーズミュージシャンに、無償で発表の場を提供しているわけです」。

感性

中学の頃、先輩に「荒川さん、尋常じゃないですよ」と言われた荒川さん。音楽は映像作家、インターネットラジオ代表、クリエイティブユニット popole NUVH 主宰など多彩である。確かにいい意味で、尋常ではないのかも知れない。(真)(中)

悔いのないように...

総合政策研究科 及川 立一さん



岩手大学工学研究科修士課程を卒業後、本学総合政策専攻修士課程に元田先生の下で、農村や過疎地域を対象に「これらの地域の交通整備をどうよいか」をテーマに研究している。本学に来るまで、地域に埋もれている地産・自然資源、文化、歴史などを、住民活動で掘り起こして地域の活性化をしようというエコミュージアムを研究していた。しかし、農村や過疎地域では、自然や地域の起爆剤にするよりも、道路整備が一番必要としていることを知り、交通整備を行った。

岩手大学で学生生活をしてきた及川さんにとって、県立大学はどう見えるのか。学では、学年ごとに授業の場所が違うので、他学年と顔を合わせる機会がなかった。は、学部棟が一掃なので同じ学部の中で学年を超え、いろんな人の顔が分かるから直会って総合政策学部の人だなんて分かる。運彩感があるように感じる」。

また、3年前、フランスでの約1年間のインターンシップでは「洪水ハザードマップのためのシステム」を考える研修をした。フランス語の資料を毎日読んで大変だったが、村建築、オーリーブ畑、甚の修道院などの風景を見に集落巡りなど、フランス生活を満喫1年間は、悔いのないように、今取り組んでいる研究をしっかりと終わらせ、そのことをもっと知りたかった。

感性

フランス生活を熱く語ってくれた及川さん。話が盛り上がり、「休日の過ごし方は何の仕事内容?」「生活費は?」など、ついつい質問攻めにしてしまった。(き)



あのことろのこと 総合政策学部 南 博方 教授



こまじやくれた小学生

昔の子どもは、今よりもずっとまてていたように思う。親戚や隣人など大人と交わる機会が多かった。特に父が弁護士をしていて、自宅と事務所が一箱だったから、客と接することが多かった。だから、子どものころから、こまじやくれて、理屈っぽく、先生であつたにちがいない。

あるとき、先生は、「山の高さはどこから計るか知っていますか。知らないだろう。海抜」といってな、海面から計るのだ」と得々として教えてくれた。僕は、手を挙げて質問した。「先生、海面といっても、満潮と干潮とあります。どちらで計るのですか」。先生は、

「すが、分かります」と答えた。けれど、

憧れの中学へ

僕の中学は、多分に野性的で、自由奔放であった。厳格な家庭と息詰まっていた僕にとって、中学は自由の別天地であった。校則(それは別天地であった)は、「実実剛健・明朗闊達」の二つだけだった。校風は「秀才を誇らず野人を誇り、名門をいわず実力を用い、明朗にして適度に楽しむことを忘れない」というものだった。中学に入ってから、虚弱児だった僕は急に頑強になり、活き活きとしてきた。勉学に王道にスポーツに明け暮れ、学校に通うのが楽しくてならなかった。

中学時代の大部分は、戦時返つてみて、あのころが一番楽しかった。決して戦争を賛美するわけでもない。あのころが僕の青春時代だったから、ひめゆりの塔の乙女たちも、「私たちが青春はありました」と書き記している。若いときは、戦争時代であつても楽しいのだ。あのころの話も出すすと、この紙面にはとても書き切れない。勤労動員の話に絞って記すことにしよう。

勤労動員で国鉄へ

中学に入る一年前、太平洋戦争が勃発した。初めは大戦果に湧いたが、次第に我に利あらず、戦局は急を告げ、二年生のときに通年動員令が下つた。勉強を一切やめて、勤労動員に出ることになった。僕たちの勤労先は、国鉄(いまのJR)であった。

国鉄では、一番下の位置を「番」という。頭も体も使わず、番をしなければいけない。その次の位には「手」という字がついて適度に楽しむことを忘れない」というものだった。中学に入ってから、虚弱児だった僕は急に頑強になり、活き活きとしてきた。勉学に王道にスポーツに明け暮れ、学校に通うのが楽しくてならなかった。

いざ踏み出れ我が宇宙

「国威を山河あり」とはよく言つたものだ。敗戦により山河以外のものは、衣・食・住ごとく失つた。科学、物量、体力はもろろんが精神力すらアメリカにはるかに劣つていた。これからは、「文化国家」として生き残る以外には、日本再生の道はない、と誓つたものだ。

自由の思想が滔々として流入したが、自由の意味が理解できず、ないての人は放縦へと走つた。強制労働の悲惨と苦しみを嫌というほど味わ

った僕は、自由の恩恵に感謝し、遊び呆けていた友人を横目に、人が遊んでいる今こそ勉強すべきときと想つた。肌えた野獣が獲物を喰ひ食うように、本を読み、万巻の書を読破しようとした。

「近志録」に「学ばざれば、即ち老いて衰う」とある。「学び」一念を忘れる、人は肉休は若くても、心は萎えてしまふ。若くても、心は萎えてしまふ。若くても、心は萎えてしまふ。若くても、心は萎えてしまふ。

自立した一人の人間として、 県立大学から世界へ羽ばたけ。



「私たちの世代は、これから変化の激しい時代を生きていくことになると思います。その中でどのような考え方をもち、何が大切だと思つていらいっしょに

いまして、一見、自分たちで自由に物事を決めることができ、思い通りに進められるように考えがちな、いざというときには、全部自分たちで責任を担わなくてはならない、非常にきびしいことでもあるのです。その意味では、いざという道の色道ではなく、いざという道を

インタビュー ■ 増田寛也若手県知事 聞き手／若手県立大学学生会新聞部

増田知事インタビュー ホームページで公開中

今回のインタビューは、県立大学のホームページ上で公開されています。Web版「MONTUO」でも紹介されています。On Demandによる動画は、すでに放送局などのホームページでは利用されていますが、自治体の首長のインタビューが掲載されるのは、国内では初めてのことで、日本はもとより、世界中のどこからでもインターネットでアクセスできる今回の試みは、各方面から注目を集めています。

Web版「MONTUO」で紹介しているインタビューは、約十五分。質問に答える増田知事の表情だけでなく、取材中の学生の緊張した様子も見る事ができますので、ぜひ一度アクセスしてみてください。

- 岩泉美奈子 (2年タイムキーパー)
- 大和久ひかり (2年記録)
- 尾形真穂子 (2年インタビュー)
- 栗山隆志 (1年カメラ)
- 佐藤泰貴 (2年インタビュー・編集)
- 千田裕矢 (1年カメラ)
- 村田敏弥 (2年カメラ・編集)
- 以上五十音順
- 岩瀬公二 (大学院 リエゾン)

知事取材カセット

イスラエルと私

ロシア語を勉強して地中海で泳ぐ

黒岩幸子

血と涙を流し続ける泥沼のイスラエル・パレスチナ抗争、冷戦期にはそれぞれアメリカとソ連に後押しされ、対立を深めた。犬猿の仲のイスラエルとソ連だったが、イスラエルのロシア研究はすこぶる秀でている。昨夏、テルアビブ大学のロシア・東欧研究所を訪ねた。

戦略学が専門で現役将校でもあるナヴェー所長はじめ、噂に違わず、超個性派、頭脳明晰なユダヤ人研究者が、好き勝手に自分の研究に打ち込んでいた。最近ロシアから移住し

Еврейское искусство

В книге представлено 1.000 лет еврейского искусства. Показано развитие еврейского искусства в разные периоды истории. Миссия, как не только представлять историческое искусство, но и показать его современное развитие.

Музей
Израиля
Иерусалим

イスラエル博物館のパンフレット(ロシア語版)

Еврейское искусство

Музей
Израиля
Иерусалим

てきた若手研究員も多く、所内ではヘブライ語、英語、ロシア語が飛び交う。

ところでロシア語は、研究所でもひっきりなしに聞こえてくる。博物館でも本屋でも、レストランでもホテルでも、通りを歩いてもタクシーに乗っても。それもそのはず、過去10年間に約100万人のユダヤ人がロシアから入植したのだ。

「ロシア系ユダヤ人」は、私がロシアで見知っているフツのロシア人と何ら変わるところがない。9年前にモスクワから移住した研究員のマリナに聞いてみると、「そうですね、最初はユダヤ人が引越してきて、その後、家族や親戚が来て、その後は隣近所の人々も頼って来ちゃったのよね」というわけだった。そういう彼女も、おいしいロシア風カツレツには豚肉が欠かせ

ないと言語し、日本料理屋では、泰然としてアナゴ、タコ、イカのにぎりを口に放り込むのだった。あの一、確か、フタはユダヤ教の禁忌、ヒレやウロコのない魚もダメと旧約聖書にありましたよね...

ソ連邦崩壊後の混乱から逃れ、安定した生活を求めて「約束の地」にやって来るロシア系移民は、厳格なユダヤ教とは程遠い。「イスラエルのロシア化」、「スラヴ化するユダヤ教」など不穏な発想が私の脳裏をよぎるが、日本人の私がそんな心配してどうなる。ホテル裏手のビーチに出かけた。忘れてはいけない、ここはれっきとした地中海。暖かい海と燃えるような夕陽、お隣のデッキ・チェアでくつろぐステキな男性はよぎるが、やはり旧ソ連ベラルーシの出身だった。そう、みんな、ロシア語を勉強して地中海で泳ごう!



インタビュー終了後、増田知事はスタッフ一人一人に声をかけ、最後には握手で助ましてくださった。

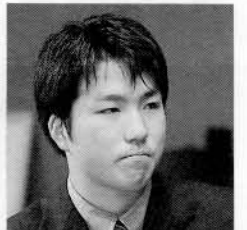
めには、それだけのリスクが伴うということなんです。例えば、税金の問題を考えてみましょ。すべてのサービスには、それなりの費用がかかります。それが行政が行うサービスにだって負担が伴います。それが税金です。これからは、行政サービスの対価としての税金も、県民のみならずと一緒に決めていく時代になるのではないのでしょうか。何事にも、今までのように決められた枠組みの中で考えているのではなく、「自己決定」「自己責任」の原則で取り進む。このことは、行政だけでなく、個人の生き方にも通じることだと思います。

増田知事 大学時代は法学部で、法律の勉強をしました。行政は、税金を使って仕事して

いますので、どういう目的で事業を行い、どういった手順で予算を使うのか、きちんとしたルールが必要で、行政の仕事も結論だけじゃなくて、手続やプロセスも大事です。法律を学んだことは役に立っていると思いつたことは役立っていると思いつたこと、私自身、学生当時のことを振り返ると、はつきりとした目的意識を持っていたかどうか、自信を持っていたかどうか、自信を持って話せるようになったが、みなさん、どういふ仕事について、今学んでいることを活かしていかないと、頭の片隅に置いておくだけで将来に生きてくると思っています。



尾形貞紀子(インタビュー)



佐藤泰貴(インタビュー)

総合政策学部には、公務員を志望している学生がたくさんいますが、何か特別なアドバイスはありませんか。

増田知事 私が通っていた大学では、学生の数が多かったこともあり、階段教室を使った大人数の授業が行われていて、教室の後ろからだと、黒板の字は見えないうえはつきりとは見えないことがありました。でも、先生が直接話す機会も少なく、それほど親密な関係になることもなかったように思っています。また、授業に出席するも次第、それだけ自分から興味をもって取り組まないと、勉強の成果をあげられなかつたので、その点、県立大学では、少人数による内容の濃い授業が行われています。もちろん、学生一人ひとりの自主性が大切なことには変わりありませんが、二、三次から基礎演習もあるようですので、比較的先生と深くお付き合いできる環境にあるのではないのでしょうか。今は、何よりも、先生も持っている知識と知恵を盗むぐらいの気持ちで授業にのぞむ心掛けが大事だと思います。

増田知事 ボーダーレス社会になると、外に向かって発信するだけでなく、外から入ってくるさまざまな文化も受け入れなければなりません。地域や日本の文化を守ることも大切ですが、海外にはモデルとすべきいいところがたくさんあります。そのとき大きなことは、表面的な部分



第2回トフル実施 レベル1新設

総合政策学部では、国際共通語としての英語運用能力を身に付ける必要性を認識し、平成11年度から学部全体でTOEFL(Test of English as a Foreign Language: 英語を母国語としない人の英語能力を測る試験)に取り組んでいます。昨年度初めて、初回の人でも受けやすいプレトフル2(Pre-TOEFL 2)を実施しましたが、総合政策学部の平均点は日本の4年制大学の平均点をかなり上回ることが判明しました。この実績を踏まえ、今年度は正規のトフルと同じレベル1を新設し、10月4日に実施しました。学部学生30人と大学院生2人が受験しましたが、677点満点のうち500点台の点数も散見され、アメリカの大学で学ぶに十分な英語力を持っている学生もいることが実証されました。

レベル2は12月6日に実施されました。1年次生94人、2年次生64人、3年次生30人が受験しましたが、500点満点のうち全体の平均は380.09点で、昨年度と比較した場合微増という結果になりました。特に1年次生の平均391.27点は、日本の4年生大学の平均379.91点を11点も上回り、これからの努力しだいでは大きく伸びる可能性を示す数字です。

各レベル、各学年でそれぞれ最高点を取った5人の学生が、昨年度創設された「総合政策学部長賞」に輝きました。受賞者は集まった学生達の見守中、細谷昂学部長から表彰され、記念品として英語の辞書を贈られました。

受験者の数から判断できますように、総合政策学部の全ての学生に無料でトフル受験の機会を与えているにもかかわらず、何らの理由もなく当日欠席する学生が目立ちました。21世紀の国際社会で活躍することが期待されている学生が、社会に出て英語の必要性を改めて痛感する前に、ぜひ在学中に英語の力を養ってほしいという学部長をはじめとする教師陣の願いが学生の耳に届かないのは残念なことです。他の学部にはない視聴覚室が学部演習室に設けられており、衛星放送はもとよりBBCやミュージック・チャンネルなども自由に聴くことができます。またトフルは言うに及ばずTOEIC(Test of English for International Communication: 国際コミュニケーションのための英語テスト)や英語検定の教材も多数配備されています。学生はいつでも英語に接することができる恵まれた環境にいることを自覚し、学習に励んでほしいと切望します。

増田知事 学内に限らず、いろんな交流の場に積極的に参加することではないでしょうか。そういう意味では、県立大学も、県内外・国内外を問わず、さまざまな文化や価値観を持った人たちが交流できる場になってほしいと思います。そのことは、県立大学に通う学生にとっても貴重な財産となるはずで、新渡戸稲造も、岩手から世界へ羽ばたき、インターナショナルな活躍をしました。みなさんも、県立大学から、国際的に活躍するグローバルな人間として巣立っていただけるものと期待しています。

「自立」の大切さを実感しました。今回、知事にお話をうかがったことが、学生の「自立」について考えさせられたことになりました。私たちが先輩と同期代には、社会に出て仕事をしている人や、家庭を持ち、親としての責任や義務を果たしている人も多くいます。そのような人々と比べると、私たちは学生のほとんどは、とても「自立」しているとは言えない面があるような気がします。私たちが親から独立すること、特に経済的な自立は非常に困難です。しかし、必ずしも「自立」をそのような一点からだけとらえる必要はないのだと気づきました。増田知事のお話から、学生の「自立」というのは、自分自身の考えに対する「自立」ではないかと考えるようになりました。大学という場所で自分の勉強したいことを見つけ、知識や考えを深めることで、人と違う自分自身を成長させる。それが大学で「自立」というものではないでしょうか。(尾形貞紀子記)

おじゃまします 「劉文静講師の研究室」の巻

《学ぶ思いがあれば 外国語も方言も怖くない》



中国事情を知るには改革開放の時代も含め歴史の理解が不可欠と劉文静先生の視座の先には、長い時間を龍のどくろのように表した「中国古史一覽圖」があった。遺蹟随、遺書使の昔から交流の中で文化の花を咲かせてきた劉同土。先生とお茶を味わいながら小さな中日交流を試みる人に大きな福が訪れるかもしれない。

扉についた小さな「福」のマグネットは訪れる人に御利益をもたらす物なのか。部屋は清々しく美しい。子供が遊ぶ風景を描いた「百子図」のテールクロスに花の類がさりげなく置かれ、中国茶の香りのかに漂うサラソンの風だ。「昨年十月講師に就任し助手室から移りました。急に一人になって最初は寂しかったですよ。なるほど資料や書籍が並ぶ棚にはまだ空間も多く興味を伝える私物も見当たらないが、中央に扉色のソファが光を集めたように存在を主張している。日々忙し先生のおつらさスペースかつ読書コーナーなのだという。中国語と中国事情を教える先生の専門は農村社会学。東北大学時代は山形や宮城で聞き取り調査を行った。農家の人々の方言に苦勞しながらも、直接向かい合えば思い通じるコミュニケーションの極意を身につけたらしい。どんな言葉も恐るるに足らずと、今年若手の産直の事例研究を進める予定と。もう一つの計画は講義とは別の、語学を通した学びの場づくり。「中国語をより深く学ぶための基盤作りをしてあげたい。意欲ある人は教師を上手に使えばいいんですよ。それに応える中で私自身も得るものがありますから」と学生にとって嬉しく優しい言葉を吐いた。これから研究室には秦時代の古幣をはじめ様々な民族の貨幣も並んでいきそう。机上で得られる情報ではなく実際に手に取り目にすることで伝わる生活のリリアリティ。それは百の言葉より多くを語る教材となるだろう。現代中国事情を知るには改革開放の時代も含め歴史の理解が不可欠と劉文静先生の視座の先には、長い時間を龍のどくろのように表した「中国古史一覽圖」があった。遺蹟随、遺書使の昔から交流の中で文化の花を咲かせてきた劉同土。先生とお茶を味わいながら小さな中日交流を試みる人に大きな福が訪れるかもしれない。

●(MONTO)岩手県立大学総合政策学部ニュース Iwate Prefectural University ●第5号 2001年(平成13年)4月5日 ●発行:岩手県立大学総合政策学部 〒020-0193岩手県滝沢村滝沢字泉子152-52 代表TEL019-694-2000 学部019-694-2700 FAX019-694-2701(学部事務室) 印刷:株式会社陸印刷 TEL019-641-8000

MONTO

岩手県立大学 総合政策学部ニュース Iwate Prefectural University 第5号2001.4.5

このニュースは100%再生紙を使用しています。

《MONTO WEB版》URL <http://www-poly.iwate-pu.ac.jp/monto/>
*岩手県立大学のホームページ <http://www.iwate-pu.ac.jp/>から総合政策学部をクリックして、次にMONTOをクリックしてもアクセスできます。
E-mail address monto@ml.iwate-pu.ac.jp

キャンパスの鳥たち・1

キビタキ

由井正敏教授

初夏、大学の北側に隣接する野鳥観察の森に近づくと、あちこちからビツボビツボ、ビツボビツボという、にぎやかな声で澄んだ空を飛び回っています。スズメよりやや小型ですが、その姿は写真のように黄緑色と黒色を基調に、腹部と翼に白い部分があるきれいな野鳥です。



撮影 鈴木祥悟氏

この鳥は、スズメ目タキ科に属し、日本と極東アジアの一部のみで繁殖し、越冬は東南アジアで行う夏鳥です。この小さい体で海を渡ってくるのには感動します。昔、渡りの時期に津軽海峡で台風に遭って迷うキビタキの大群を漁船の灯りを付けて岸まで誘導したという有名な話がありました。

国内では全国各地で繁殖しますが、最も好きな環境はブナ、ナラ類などの落葉広葉樹林です。そうした林では、シジュウカラやヒガラとともに優占しています。ヒタキの仲間も、空中でフライキョウツツング法で飛行

空中回廊不審者 侵入事件の謎

モンTO事件簿(その5)

空中回廊…凡字型の校舎を月の字型に結ぶ三階の共存の回廊で、見学者をまず案内する眺望絶佳の本学の名所でもあります。ところがこの空中回廊を深夜、小柄で着物の異形の不審者が「カイロウカ(回廊から怪盗?)」と威嚇しつつ通るといふ怪事件が連続発生し、本官銃形モント警部が、ついにその不審者を身柄拘束いたしました。



住所不定、戸籍もなく年齢不詳、本人の言によれば、江戸時代中期の生れ。話し言葉が極めて古風、着衣もまた博物館にあるような時代物であり、超高齢のようですが、容貌体格は幼年という、半ば童児で、半ば老人の妖怪でありました。

職務質問の結果、同人は柳田国男や宮沢賢治の著作にも登場した「座敷わらし」なるものと判明しました。この者が住み着いた家は来、住み替えて去ると没落するとか。彼には夜「帰ろうか」「替え

マイ・ホームページ 平野千博教授にクリック



ホームページに何を記し何を伝えるか。「私自身をわかってもらおう。それには最近の成果と地域との関わりを見てもうのうのうと書いたら、丁先生に教える月のこと、以来、最新情報の書き換えには余念なく、取材記事の三日間にも改編された文部科学省のホームページへのリンクを加えたい。

第五回 お宝拝見! 遠くにおいて想ふもの

「画家 野田英夫への幸福な道のり」



山田佳奈 多く描いた。そこにはたとえ土や木に触れた時の安心感も似たある種の「確かな」がある。だが特に、描かれた人々の視線がどこへ向かっているかに感じられる。心にはワと小波のたつことがある。あるいは彼自身の視線なのか。野田が米国カリフォルニアに「客死」世として生まれながら日本に「客死」するまでの三十年間、物理的にも思想的にも日本とアメリカとを往復しつづけた年月だったという。彼の絵に感じる風はこうしたところから吹いてくる風はどうか。

●編集後記 早いもので、ヨチヨチ歩きだったこの大学も4年生を出すと、今更には「学内には最初のころと比べると落ち着きあがってきた」と。今更には「学内には最初のころと比べると落ち着きあがってきた」と。今更には「学内には最初のころと比べると落ち着きあがってきた」と。